

## 地域と連携した教育

山口県立岩国商業高等学校

竹本 知道

### 1 はじめに

本校は、「総合ビジネス科」と「国際情報科」の二つの学科からなる全日制商業科の専門高校である。生徒数は360名と小規模ながら部活動が盛んで、運動部、文化部ともに県・全国大会で好成績を収めている。また、言葉遣い、挨拶などのビジネスマナー教育に力を入れ、地域に愛される岩商生の育成に努めている。

卒業後の進路は、就職が4割、進学が6割である。就職者の7割以上が岩国市内で就業しており、地元定着率も比較的高い。

### 2 地域の活性化と地域共生

本校では、昨年度より学校設定科目「地域学習」を開設した。第1学年全学科1単位必修となっており、地域の歴史・文化・産業等に関する知識を習得させ、地域社会の現状と課題について理解するとともに、地域社会の発展を図る創造的な能力と実践的な態度を育てることを目的としている。

また、今年度から第2学年に科目「商品開発」を開講し、商品を開発していくノウハウを学習し、それをふまえて自ら商品を開発することに取り組ませている。

第3学年では、「課題研究」の中に商品開発班を設け、地元特産品を利用した商品開発を行い、12月にある販売実習「プラザ岩商」で販売したいと考え、取り組んでいる。

来年度には、科目「電子商取引」が第3学年に開講され、開発した商品をインターネット上で継続的に販売していく予定である。

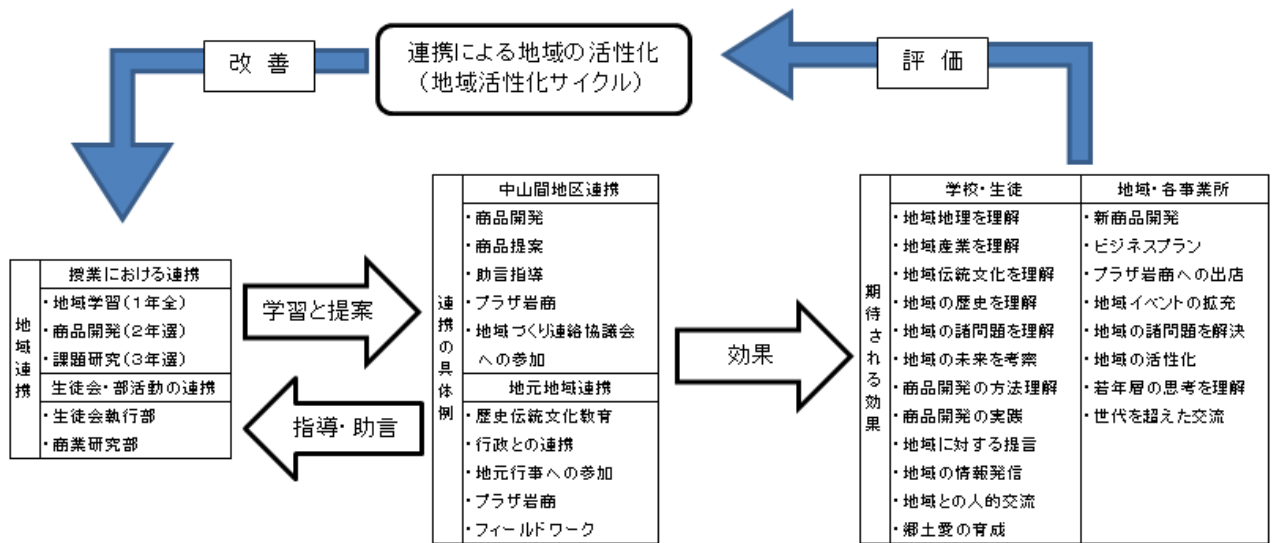
第1年学年の「地域学習」、第2学年の「商品開発」、第3学年の「課題研究」「電子商取引」「総合実践」と系統立てた科目を学習していくことで、地域への愛着を深め、地域の活性化に少しでも寄与できる人材を育成していきたい。地域と共生していく学校作りが、地域の活性化につながり、さらに学校の活性化にもなると信じている。

これらの実践的な力を養っていく教育は、地元企業の協力なくしては語れず、どのように協力企業を探していくかがこれからの課題となっている。



「課題研究」商品開発班 岩国市小売市場とひまわり市民倶楽部活動拠点中川家へ

### 3 本校がめざす地域活性化サイクル



授業や生徒会活動、部活動で商品開発やビジネスプランの提案を行い、各事業所、市民団体からの指導助言をいただきながら、実現可能なプランを共に練り、全国に発信していきたいと考えている。これは、単発の試みでは十分な成果は見込めず、継続して取り組んでいくことにより効果が期待できるものである。このサイクルが潤滑に回ることにより、地域にも新しいアイデアが生まれていくのではないだろうか。

### 4 行政の支援

他校の取り組みを見てみると、商品開発においても大手企業とコラボしている場合が多い。やはり、資金、人的確保の問題やリスクの回避など、大手企業でないと対応できないことも多いのかもしれない。

しかし、地域の活性化を考えた場合、やはり地元の事業所と協力して商品の開発に取り組みたい。そのために、行政から何らかの支援があれば非常にありがたい。

### 5 おわりに

本校では、地域との共生を通じ、地元にも愛着を持った若者を育成していきたいと考えている。若者の力が地元の活性化には不可欠である。学校と地域が連携を深め、地元に残り地域を支えていく人材を、地域と共に育てていきたい。生徒にも、地元の人々と共に何かを作り上げていく喜びを経験させたいと思っている。

地域のことを理解し、将来の岩国地域について考え、自分自身が地域活性化へ寄与できる態度を育成していくことを目標に、これからも学校として何ができるのかを考え続けていきたい。